

CONTENTS

● MIDI規格国際標準化報告	2~3
● MIDI規格委員会 WebMIDIWG 報告	4~5
● MIDI検定委員会報告	5
● 「大音学会」報告	6
● 著作権・ソフト委員会報告	7

委員会活動中間報告



今年はMIDI規格誕生30年の年として、梯郁太郎 & Dave Smith 両氏の「Technical GRAMMY Award」受賞式にはじまり、MIDI規格国際標準化事業もMIDI 1.0規格のコア部分をIEC（国際電気標準会議）へ5月に提出、6月のIECロンドン会議、9月のTC100シンセン会議を経てNP+CDVの手順による投票の適応が決まり、IEC中央事務局との契約交渉も妥結に向けて動き出しました。また、WebMIDI APIや電子楽譜等の新しいテーマやワーキンググループの発足等充実した1年となりました。また、音楽配信の分野では、AMEIも構成団体として活動する利用者代表である「ネットワーク音楽著作権連絡協議会(NMRC)」の代表世話人が佐々木隆一氏(AMEI副会長)から和田康孝氏(AMEI副会長)に交替し、昨年より継続していましたイーライセンスとNMRCの規定改定にかかる協議では2月に合意をし、イーライセンスとNMRCは合意書を締結し、規定改定に到りました。管理事業者との規定改定に係る手続きにおいて非常に重要な意味合いを持つ出来事でした。明年も音楽を取り巻く環境はネットワークの進化と共に様々な変化をしていくと思われませんが、会員・関係者の皆様には今後ともご尽力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

IEC TC100/AGS・AGM 深圳国際会議出張報告

AMEI MIDI 規格委員会 委員長 飛河 和生
副委員長 河口 幸裕

MIDI 国際標準化の進捗状況

MIDI規格委員会とMIDI国際標準化ワーキンググループでは、MIDI 1.0規格のコア部分をIEC（国際電気標準会議）にて標準規格化するという方針に沿い、MMA（MIDI Manufacturers Association）との連携のもと、本年5月にIECへの申請を提出、6月にはロンドンで開催されたIEC会議での審議に出席と順調にステップを進めて来た。またそれらと並行して、国際標準化後にIECから発行される事になるMIDI規格文書の著作権や維持管理のイニシアチブを明示的に確保するため、MMAのTom White会長が先頭に立ってIEC中央事務局との契約交渉を継続して来ている。

そのような状況の中、9月にIECの専門委員会のひとつであるTC100（オーディオ・ビデオ・マルチメディアシステム及び機器）の年次総会が中国の経済特区シンセン市で開催され、AMEIからは飛河、河口の2名に加え著作権・ソフト委員会から音楽電子出版部会の村上部会長が参加。MMAからはTom White会長が参加した。

IEC シンセン会議での決定事項

総会では、TC100の運営会議であるAGM（Advisory Group on Management）会議において、標準化のステップを簡略化して作業期間を短縮できる「NP and CDV simultaneous circulation手順」※をMIDIに適用する事が正式に決定事項とされた。この手順は十分成熟した規格の場合にのみ適用可能とされており、MIDI 1.0の実績と成熟度が認められた結果と言える。

また、先述の通りIEC中央事務局との契約交渉が進行中であるという事情を踏まえ、その結論が出てから今後の具体的な標準化ステップを進める事が確認された。

今後の予定

申請手続き以降、ここまでのステップはひとまず順調と言える。並行して進行中のIEC中央事務局との契約交渉については、当初想定以上の時間がかかっているものの、シンセン会議以降も着実に進展している。引き続き予断は許さないが、近いうちに着地点を見出せるものと思っている。交渉決着の後には、今回のシンセン会議で確定した簡略

手順に沿って、通常2～3年を要する標準化作業を半年～1年以内に完了できる見込みである。

MIDI国際標準化は経済産業省の進める国際標準開発事業の1テーマとしてAMEIが受託している活動でもある。受託事業としては本年度が最終の3年目であり、本年度中にできる限り進捗させる。引き続きAMEI参加企業各位のご理解とご協力をお願い申し上げるとともに、日頃より厳正かつ温かいアドバイスをいただいているIEC/TC100の多くの日本人スタッフの皆様に感謝申し上げたい。

※「NP and CDV simultaneous circulation手順」

NP（新業務項目提案）投票とCDV（投票用委員会原案）投票の同時回付について

TC（専門委員会）／SC（分科委員会）の議長及び幹事は、完成度の高いドラフトが投票にかけられる状態にある時などの場合には、NP投票とCDV投票を並行的に行うことができる。NPとCDVの投票は、明確に2つに区別された関連文書および投票用紙で区分され、投票期間は通常プロセスと変わらず、NPは3ヶ月、CDVは5ヶ月である。NPが承認された場合、CDV投票はそのまま続けられ、当プロジェクトは“CDV”段階にあるとみなされ、CDV投票の期間が過ぎた後、TC/SC幹事は通常通りに投票結果を作成する。

プロジェクト段階	通常の手順	提案とともに提出された原案	迅速化による手順	技術仕様書(TS)	技術報告書(TR)	一般公開仕様書(PAS)
提案段階 (NWP)	提案の受理	提案の受理	提案の受理	提案の受理		提案の受理
作成段階 (WD)	作業原案の作成	WGによる原案		原案の作成		一般公開仕様書原案の承認
委員会段階 (CD)	CDの閉案及び受理	CDの閉案及び受理		原案の受理	原案の受理	
協会段階 (GDV)	協会原案の閉案及び受理	協会原案の閉案及び受理	協会原案の受理			
承認段階 (FAS)	FASの承認	FASの承認	FASの承認			
発行段階	国際規格の発行	国際規格の発行	国際規格の発行	技術仕様書(TS)の発行	技術報告書(TR)の発行	一般公開仕様書(PAS)の発行

注) 点線で囲まれた円内のイタリック体の段階は省略してもよい。

(ISO/IEC Directives Part 4 版 参照)



IEC AGS/AGM 会議



IEC TC100 メンバー

IEC TC100/TA10 深圳国際会議出張報告

AMEI 著作権ソフト委員会 音楽電子出版部会
部会長 村上 博幸

IEC 深圳会議出張レポート

◆出張概要及び目的

IEC (注1) のTC-100 (注2) 年次総会のため、中国深圳に出張しました。9月23日～27日の会期中、国際会議場の麒麟山荘では様々な会議が進行。目的の会議は9月25日の「TA-10」(注3)です。ここに、米・英・独・日の4カ国から、電子出版のエキスパート10名が参加しました。今回の私の役割は、「現在電子楽譜がどのように流通しているのか」また「将来スクリーン上でどのように表現される可能性があるのか」をお伝えし、市場成長のためには国際標準化が不可欠、のアピールを行うことでした。著作権ソフト委員会戸叶委員長の構成によるプレゼンです。

◆会議状況及び結論

「Requirement for international standardization of digital sheet music & associated technology」。準備した8分のプレゼンを終えると、パネラーからは矢のような質問が飛び交いました。例えば、どの業界のどの部分が標準化対象なのか、達成スケジュールをどう描いているのか、等々。あまりの鋭さにこれはプレゼン失敗か…と不安がよぎりました。しかし実際は興味の証としての質問攻勢だったようで、同席されたIECのベテラン、MIDI規格委員会飛

河委員長、河口副委員長からもそう解説をいただき、一安心でした。議長結論を「TR (注4) を作成し来年初頭にIECに提出する」として会議を終え、会期最終日のAGM (注5)においてもこの議長結論は承認されました。従って、今後のAMEIの取組みとしては、AMEI内に技術系委員とコンテンツ系委員の横断組織を編成の上、TRの作成に入ることになります。つきましては、委員会を越えた関係各位のご協力を賜りますよう、この場をお借りしてお願い申し上げます。

- 注1 IEC (International Electrotechnical Commission)
国際電気標準会議。電気電子技術分野の国際標準規格の作成と普及を担う。
- 注2 TC100 (Technical Committee 100)
オーディオ、ビデオ、マルチメディアシステム及び周辺機器が取扱い分野。
- 注3 TA10 (Technical Area 10)
電子出版・電子書籍技術が取扱い分野。
- 注4 TR (Technical Report)
企画の目的・達成手法を記述した計画書。
- 注5 AGM (Advisory Group on Management)
全TAのリーダー (議長、セクレタリー)が集まる会議。



深圳市は中華人民共和国広東省に位置する副省級市。香港の新界と接し、経済特区に指定されている。同国屈指の世界都市であり、金融センターとしても高い重要性を持つ。2010年の近郊を含む都市的地域の人口は1,447万人であり、世界第15位である。



IEC TC100/TA10 メンバー

Web MIDI WG の発足及び設立趣旨について

Web MIDI WG リーダー 多田 幸生

◆Webアプリケーションとは

近年、Webブラウザ上で動作するアプリケーションの普及が進んでいます。例えば、GMail や Google Docs といったアプリケーションは、皆さんもお使いになったことがあるのではないのでしょうか。これらのアプリケーションは、インストールが不要で手軽に起動できる、OSに縛られない、などの利点から、今後さらに普及が進むと予想されています。

このようなネイティブアプリケーションからWebアプリケーションへの移行は、我々がターゲットとする音楽アプリケーションの分野でも起こり始めています。例えば、Webブラウザ上にピアノロールを表示してシーケンスデータを作成することのできる DAW や、Standard MIDI File のシーケンサー、アナログシンセサイザーのシミュレータなどが既に実装・公開されています。

◆ Web MIDI API

こうしたアプリケーションを実現するのに欠かせないのが、現在W3C (World Wide Web Consortium) で策定作業が進められている "Web MIDI API" <<http://webaudio.github.io/web-midi-api/>>です。Web MIDI API は、Web ブラウザから MIDI を扱うために実装されている API で、この API を利用することで、JavaScript で実装されたアプリケーションから外部の MIDI 機器を制御することができます。

Web MIDI API はまだ策定途中でであり、W3C勧告 (W3Cの承認を受けた正式な仕様) となるためには多くのハードルを越

える必要がありますが、

- [1]この仕様が、MIDI という名前をつけても問題の無い仕様となるようにコントロールすること
- [2]この仕様の普及促進活動を行うことで、将来的に大きな発展を見込める Web 業界と音楽電子事業を結びつけることが重要であると考えます。

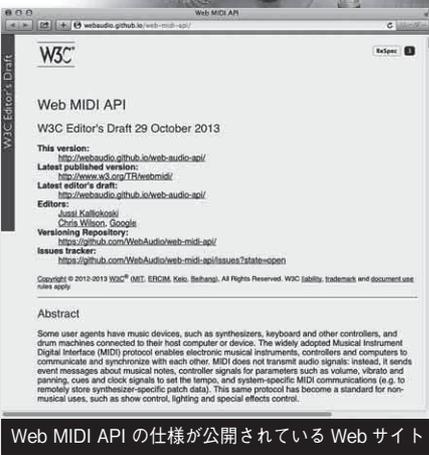
◆ Web MIDI Working Groupの設立について

このような想いの下に、2013年7月、技術研究部会の傘下に "Web MIDI Working Group" を設立し、活動を開始致しました。現時点における成果としては、AMEI としての W3C への加入と W3C 年次総会 (TPAC) への参加、10月に開催された JSPA 大音楽会でのセミナー、同じく10月に Google Japan にて開催された Web Music ハッカソンへの協賛、などがあります。

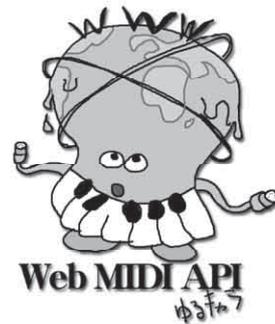
今後も引き続き、W3C や MMA などの外部団体とも協力しながら、Web MIDI API の規格策定・普及活動を行うと共に、Web と音楽との融合という新しい分野を開拓できればと思っております。今後ともよろしくお願いたします。



Web ブラウザで動作する音楽アプリケーションの例



Web MIDI API の仕様が公開されている Web サイト



Web Music ハッカソン協賛報告

去る2013年10月19日、Web Audio API/Web MIDI API の普及促進を目的として、Web Music Developers JP という開発者コミュニティと Google Japan の主催にて「Web Music ハッカソン」が開催されました。

ハッカソン (hackathon) とは、ハック (hack) とマラソン (marathon) を合わせた混成語であり、プログラマーやデザイナーなどの開発者が集まって共同作業を行い、決められた時間内で何らかのソフトウェア・ハードウェアを作り上げるイベントのことを言います。今回のハッカソンでは、1日で Web ブラウザ上で動作する音楽アプリケーションを開発することを目標としました。

会場となった六本木の Google オフィスには、朝10時に一般

から応募のあった約30名の開発者が集まり、およそ1時間の趣旨説明の後、Webブラウザ上で動くシンセサイザーを開発する「シンセサイザーチーム」や、外部ハードウェアと連携する音楽アプリケーションを開発する「デバイス連携チーム」など、5つのチームに分かれてプログラム開発を行いました。

昼食を挟みおよそ6時間ほどのコーディングの後、各グループ毎に自分たちの開発したソフトウェアの発表を行ったのですが、楽器のオーディオ・MIDI出力を Web ブラウザに取り込み、演奏に同期した美しい映像を生成するソフトウェアや、人の顔を Web カメラで認識し、口の動きでドラムマシンを演奏するソフトウェアなど、普通ではなかなか思いつかないパラエティに富んだ成果を得る事ができました。

普段は楽器と楽器を接続するためのプロトコルとしてとらえがちな MIDI ですが、Web ブラウザを介することで、カメラや映像装置など、これまで楽器との連携が難しかったデバイスとも簡単に接続できることが実感でき、新しいMIDIの活用方法に気づかされたイベントとなりました。また、参加者の中には今回初めて MIDI を知った方も多く、このハッカソンをきっかけに MIDI の有用性をご理解いただけたのではないかと思います。

今回、AMEI は協賛という立場でこのハッカソンの運営に参画し、開発に使用する MIDI キーボードや音源、ドラムマシンなどの貸出を行いました。こうしたイベントを第2回、第3回と継続していくことで、Web 開発者と MIDI との距離を縮め、Web MIDI API の普及に貢献できればと思います。



オーディオと MIDI に同期した映像を生成するアプリケーションの発表



MIDI で動作するドラマー型ロボット (DonTATA くん)



AMEI より提供した楽器



アメリカからビデオ会議で挨拶を行った Web MIDI API の Editor である Chris Wilson 氏

MIDI 検定委員会報告

2013 年 MIDI 検定 1 級試験について

MIDI 検定委員会副委員長 上杉 尚史

昨年度より夏休み期間に実施しております MIDI 検定 1 級試験が、8月9日～19日に行われました。今年で5回目を迎える本試験は、作編曲家による未発表のスコアを参照し、MIDI データを駆使して音楽を作り上げ、音楽 CD を完成させるというもので、昨年までに90名ほどの合格者がおります。譜面を正確に読み取って MIDI データにする力と、音色、抑揚、ミックスバランス、エフェクトなどの表現力を総合的に試される内容となっており、MIDI 検定の最終関門にふさわしい試験です。

MIDI 検定 1 級では、毎年試験のために書き下ろしていただいた未発表曲を課題曲としているのですが、今年は誰もが知っている「大きな古時計」のオリジナルアレンジという新たな試みもあり、受験者にとっても新鮮だったのではないかと思います。

このオリジナルアレンジですが、ビッグバンド JAZZ バージョンになっており過去4回には無かったスイングというリズムに取り組みました。8分音符裏拍のタイミングがテンポや全体のグループで変化するスイングのタイミングは、採点時の基準の付け方が難しいという理由で今まで避けてきたのですが、1次審査のタイミングチェックではスイングのタイミングを採点対象から除外し、2次審査のオーディオでチェックするというルール作りをすることで実施しました。また、スイングについての解説をはじめ、JAZZ 特有の管楽器奏法などについても作者からコメントをいただき制作規定の中に記載しましたの

で、受験者にとっても良い勉強になったのではないのでしょうか。受験者の中には JAZZ を初めて制作した方も多く、スイングの考え方をこの試験で学んだという方もおりました。

本年度の受験数は43名で、MIDI データの正確性を審査する1次審査を15名が通過しました。MIDI 検定 1 級試験は、3級、2級 (1次、2次ともに) を合格しないと受験資格を得られません。2級2次試験ではすでに MIDI データ制作の試験を体験し、難関を突破してきた方でも30%程度しか通過できませんので、1級試験のレベルの高さがおわかりいただけるのではないかと思います。さらに2次試験では抑揚、グルーブ感、ミックスバランスなど、表現力に関して厳しくチェックされた上で見事合格した方が9名おりました。審査員から前述のスイングに関して厳しいコメントが寄せられましたが、こういったコメントをいただけるのも1級試験の良いところで、合格しても不合格でも「何が良くて、何が悪いのか」ということを把握できます。「昨年〇〇を指摘されたので、今年は気をつけてみました」というコメントを記載してこれ、聞いてみるととても良くなって今年見事合格した方もおり、こういう受験者を見ていると MIDI 検定を実施して良かったと感じます。難関を突破した1級合格者の皆さんに活躍していただきたいと願うと共に、MIDI 検定事業を通じてスキルアップしていただければうれしく思います。

JJ Academy of music 大音学会 2013 新宿オープンゼミナール

MIDI 検定委員会 大浜 和史

JJ Academy of music 大音学会 2013新宿オープンゼミナールは、一般社団法人日本シンセサイザー・プログラマー協会 (JSPA) と一般社団法人日本作曲家協会 (JCAA) の共催で10月12日と13日の2日間、西新宿の芸能花伝舎で行われました。作曲、音創り、音楽制作とクリエイター育成の為にトッププロの両団体が企画した内容は、学会の名が示す通り、作曲家、音大講師の諸先生方から直接学べるゼミナールでした。

AMEIはMIDIと共に広く音楽普及の趣旨に賛同し、このイベントに参加協力しています。

2つのスタジオ、2つの教室では両日共実に様々な内容の講座が繰り広げられました。初日「DAWマエストロ MIDI検定1級」は1級課題曲を作曲された外山和彦氏がスコアに込めた音楽への想いと共に、管楽器の表記と奏法について実演を交えて解説されました。



服部克久 JCAA 会長 小六禮次郎 JCAA 副会長

教室では「JASRACセミナー」「音楽講師・学生のためのCubase7セミナー」が同時進行。

午後からは「植松伸夫のゲーム音楽って何だ!」、篠田元一、小川文明の「あの名曲のあのシンセの音は?」、「ピアニスター HIROSHIのザッツ・ピアノエンタテイメント」さらに「松武秀樹のテクノ道」「Sibeliusセミナー」「finaleセミナー」と続きました。圧巻は、作編曲の公開レッスンとなる「音源研究会」。課題は「2020東京オリンピックのファンファーレを作る」でした。スコアとCDを提出した受講者に評価が下ります。講師陣は服部克久、小六禮次郎、山下康介、猿谷紀郎、萩田光雄、大浜和史、北城浩志とそうそうたる面々。初日の最後となる「服部克久の編曲畑」ではJCAA会長の服部先生、副会長の小六先生お二人の編曲にまつわるエピソードと温かい音楽話を頂きました。



松武秀樹 JSPA 代表理事



2日目「オルガンサミット」は電子楽器のルーツであるオルガンの知識と技法の特集です。大浜和史のオルガン基礎講座に続きMorgan Fisherは彼のパイプオルガンで音の仕組みを説明し、小川文明と大久保治信の Hammond 奏法とドローパーテクニックは圧巻でした。

「ハーブの現場から」ではスタジオ・ハーブの第一人者、朝川朋之の貴重な演奏と解説。



朝川 朋之 氏



JSPA 名誉会員 Morgan Fisher

「音楽ビジネスの仕組み」は一般社団法人日本音楽出版協会会長の谷口元氏の講演。

「インタラクティブ・アートなMAXと現代音楽講座」、「VOCA LOIDと著作権」そして「Web MIDI APIが拓くWeb音楽の世界」ではブラウザ上のMIDIを扱うAPIの紹介がありました。

JSPAとJCAA、2つのJが行ったJJ Academy of music 大音学会の会場は、天候にも恵まれ学ぶイベントは熱心な受講者で賑いました。好評を頂いた充実の内容と十分な手応えに今後の発展が期待されています。両日の参加来場者数は516名となっています。

早稲田大学「基幹理工学部：国際コンテンツビジネスの基礎理論」講座について

著作権・ソフト委員会委員長 戸叶 司武郎

早稲田大学 森康晃研究室（創造理工学部社会文化領域）と著作権・ソフト委員会の連携講座は今年で6回目の開講となりました。今回は講座名を「後期授業：基幹理工学部／国際コンテンツビジネスの基礎理論」とし、ビジネスの基本理解に重点を置いています。授業は毎年金曜日の夜のため第3回から第5回までは音楽バンド活動や学生起業目的で留年中など、個性的な学生たちと密度の濃い授業をしておりましたが今年は学部1年生が多く80名が受講しています。会員企業から参加されている社会人の皆様にはいつも席の調整にご協力を賜りありがとうございます。大学における本講義の立ち位置は「音楽配信ビジネスを事例とした国際的な知財戦略（主に著作権。加えて特許、商標など）の特論」であり、講義のミッションは「欧米・アジア市場などで高く評価されており、その知財戦略が益々重要になっている我が国の「COOL JAPAN」コンテンツの解説とビジネス上の課題について、実際のビジネス現場で活躍する担当者が講義を行う。」こととなっています。9月のオリエンテーションで出た学生の要望は、YouTubeの違法性や違法ダウンロード刑事罰化、私的使用目的の複製（制限規程）、中国での模倣品や海賊版アプリ対策、著作権フリーアプリ、保護期間、演奏活動に発生する使用料、自分が制作したプログラムの価値評価基準など、広い範囲にわたりました。

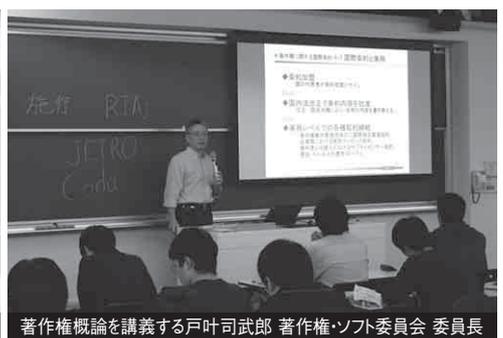
授業は座学（戸叶・堀江康明/音楽配信部会長）、演習（戸叶）、そしてゲスト講師の3部で構成しています。前半は戸叶が担当し、著作権法とコンテンツビジネスとのギャップ、主要な知財系国際条約、国際コンテンツビジネスとしての音楽を解説するとともに、専攻学科別に10名程度のチームを作って商品企画演習を指導しました。学生達が考えた企画にはプログレッシブ・ロックバンドのプロモーション企画や、医療系アプリをキープクターとする健康診断システムのビジネスモデル企画など、ニッチかつ多様性を意識したものがあり、発想の柔軟性に将来を期待する次第です。ゲスト講師は、一昨年は株式会社ジャパン・ライツ・クリアランス（JRC）の荒川社長に、昨年はAMEI会員企業でもあるクリプトン・フューチャー・

メディア株式会社の伊藤社長に、今年はソニーモバイルコミュニケーションズ株式会社の木野内 隆氏に講義をお願いしました。日本におけるソニー「walkman」の市場シェア変遷をマーケティング戦略の視点から、各社群雄時代、ipod寡占時代、そしてソニーがシェアトップに至るまでのプロセスを、当時の市場動向やユーザーの意識分析など判断材料となるデータをもとに講義して戴きました。特にランチェスター戦略理論を例にして、限定市場でのターゲットを絞り込むことで周辺ユーザーへの波及効果が大きくなったこと、競争戦略の中に歌詞コンテンツの提供によるipodとの差別化とその実現のためにAMEIの協力があつたことなど、コンテンツビジネスの奥行きの高さも含めて当時を担当された木野内氏から現実感あふれる説明を戴き、学生達は興味深く聞いていました。また早稲田理工学部同窓生である同氏から、商品企画と技術開発が常に連携しなければユーザーに受け入れられる商品は作れず、最近のメーカーの商品企画担当者はほとんどが技術系出身者であるとの現状説明に学生達はかなり刺激を受けていました。

後半（2月まで）は堀江康明音楽配信部会長（株式会社エクシング）による、ビジネス事例をもとにした知的財産の講義です。主に通信カラオケビジネスに関わるコンテンツ著作権や商標・肖像の権利と、ユーザー参加型配信サイトにおける様々な権利の考え方を、カラオケ法理の解説や主要判例の説明、さらに実際の具体例映像と参照音楽を毎回紹介し硬軟取り混ぜて権利の考え方とリスクマネジメントの重要性を理解させています。コンテンツビジネスや知的財産にとっても大きな関心を持っている早稲田の技術系学生諸君の強い意欲を感じるとともに、将来音楽電子事業に係わる社会人として活躍することを期待しております。



オリエンテーションで学生に説明する森 康晃 教授



著作権概論を講義する戸叶司武郎 著作権・ソフト委員会 委員長



walkman市場戦略成功事例を講義する木野内 隆氏（ソニー）



カラオケ関連コンテンツをもとに事例研究を講義する堀江康明 音楽配信部会長

東日本大震災、並びに福島第一原子力発電所事故により
被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。
被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

会員名簿

50音順 2013年12月25日現在

あ	す	ふ
<ul style="list-style-type: none"> Apple Japan 合同会社 株式会社アムタス 	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社ズーム 株式会社鈴木楽器製作所 株式会社スリック 	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社フェイス 株式会社フェイス・ワンダワークス 株式会社フートレック
い	せ	へ
<ul style="list-style-type: none"> 株式会社インターネット 	<ul style="list-style-type: none"> セイコーインスツル株式会社 株式会社セガ 	<ul style="list-style-type: none"> ベストタックス株式会社
え	た	み
<ul style="list-style-type: none"> 株式会社エクシング 株式会社エムティーアイ 	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社第一興商 株式会社タムラ製作所 	<ul style="list-style-type: none"> ミュージックノート株式会社
か	て	や
<ul style="list-style-type: none"> カシオ計算機株式会社 株式会社河合楽器製作所 	<ul style="list-style-type: none"> ティアック株式会社 株式会社ディーアンドエムホールディングス 	<ul style="list-style-type: none"> ヤマハ株式会社 一般財団法人ヤマハ音楽振興会 株式会社ヤマハミュージックメディア
く	と	ら
<ul style="list-style-type: none"> クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 クリムゾンテクノロジー株式会社 	<ul style="list-style-type: none"> 東映ビデオ株式会社 株式会社ドワンゴモバイル (有) 東京堀田制作集団 	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社ラグナヒルス
こ	な	ろ
<ul style="list-style-type: none"> 株式会社コルグ 	<ul style="list-style-type: none"> ナクソス・ジャパン株式会社 	<ul style="list-style-type: none"> ローランド株式会社
さ	に	
<ul style="list-style-type: none"> 株式会社サイバード 株式会社サマーネットワークス 	<ul style="list-style-type: none"> 学校法人片柳学園 日本工学院専門学校・ 日本工学院八王子専門学校 一般社団法人 日本シンセサイザープログラマー協会 	<p>〈正会員会社 45 社〉</p> <p>* 賛助会員</p> <ul style="list-style-type: none"> 中音公司 (中華人民共和国) 株式会社博秀工芸 株式会社ミュージックトレード社 <p>〈賛助会員会社 3 社〉</p>
し	は	
<ul style="list-style-type: none"> 株式会社シーミュージック JVC ネットワークス株式会社 島村楽器株式会社 学校法人尚美学園 株式会社シンクパワー 	<ul style="list-style-type: none"> バイオニア株式会社 	

赤松 憲樹氏 (当協会幹事) ご逝去のお知らせ

当協会幹事の赤松憲樹氏が10月21日逝去されました。享年80歳。
氏は長きに亘り学校法人尚美学園理事長、公益財団法人日本音楽教育文化振興会理事長を勤められ、音楽教育・音楽文化の普及・発展に尽力し多大な貢献を果たしました。
又、当協会設立当初より一般社団法人に移行する平成24年まで当協会の理事を勤められ、協会の発展にも寄与されました。
「お別れの会」(委員長 学校法人尚美学園理事長 松田 義幸氏・喪主 公益財団法人 理事長 赤松 昌代氏)は、11月24日尚美バリオホールにて多数が参列する中執り行われました。



AMEI NEWS Vol.52 / 2013.12.25
一般社団法人音楽電子事業協会 機関誌
発行：一般社団法人音楽電子事業協会 事務局
〒101-0061
東京都千代田区三崎町 2-16-9 イトービル 4F
TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549
発行人：岩崎修三
編集人：石黒士郎 (広報委員会)
編集協力：株式会社 博秀工芸
ホームページアドレス：<http://www.amei.or.jp/>

MIDI 検定 2級 2次試験実施のお知らせ

MIDI LICENSE

平成25年度

「MIDI検定」 第15回
MIDI検定2級2次試験

● ミュージッククリエイターの為の認定制度

〔試験期間〕 2014・2/22(土)~2/23(日)

